

いのちの言の葉2009

富山県教育委員会平成21年度いのちのメッセージ発信事業

「いのち」

富山市立東部小学校4学年児童
平成21年11月25・26日実施

【いのちの先生】

土田 亮一先生
・土田内科医院 医師

【授業の概要】

- 1 担任の話（導入及び「いのちの先生」の紹介）
- 2 いのちの先生の話
 - (1) いのちの始まり（宇宙の始まり・宇宙、人類の歴史）
 - (2) つながるいのち（60兆個の細胞からなる人体・いのちのバトン）
 - (3) 心臓の鼓動（生きている実感・聴診器で聴き合う）
- 3 感想の記入



私は、土田先生が一番伝えたかったのは、いのちは人から人へと受け継がれていくということだと思いました。私は、神様が選んでいると思っていたけど、選ばれて今を生きていることが、とってもすてきなことだと思えてきました。だから、このいのちを無駄にしないようにしたいなと思いました。



私は今までのいのちって何かよく分かりませんでした。でも、いのちの授業に参加して、いのちは、お父さん、お母さん、おじいちゃん、おばあちゃんよりもっと前の先祖から受け継いできたのだと分かりました。いつも校長先生が言うとおられるように、いのちは一つしかないので、大切にしていきたいと思いました。

いのちの話聞くまでは、「いのちって何だろう」と考えたこともありませんでした。いのちは、人から人へとつながっています。お父さんとお母さんが結婚して今の私がいるので、二人が結婚してくれてよかったです。お父さん、お母さんから受け継いだいのちをこれからも大切にしていきたいです。そして、いつの日か私の子どもにしっかりとバトンを渡します。

ぼくは、土田先生の「人間はみんな兄弟、みんな親類」という言葉に感動しました。また、自分の心臓の音を聞いてみると、15秒に25回も動いていました。1日に144,000回も動く計算になるので、びっくりしました。毎日休まずがんばっている心臓に感謝いっぱいになりました。

お話を聞いて、いのちは何よりも大事で、いのちはどこまでも続いているということが分かってよかったです。最初は、いのちってそんなに大事なものかなって思っていたけど、土田先生の話聞いて、いのちの大事さ、いのちがあるからご飯を食べられるということが分かりました。だから、いのちを大切にしていかなければいけないし、その大切さを忘れないようにしなければいけないと思いました。